



吉美小だより

綾部市立吉美小学校
令和6年5月20日号

「人を大切にする」子ども・教職員のいる学校

<学校教育目標>
<教育スローガン>

自立と貢献 ～夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 子どもの育成～
「笑顔・元気・夢いっぱい そして 思い合い」

「わくわく元気いっぱいタイム」～外で体を動かして遊ぶ～

今年度から本校では、「わくわく元気いっぱいタイム」という時間を原則隔週金曜日に設けています。HPでも紹介しましたが、中間休みの時間を20分間から30分間に延長し、子どもたちを目一杯遊ばせようというものです。「基礎体力の向上」と「仲間づくり」をねらいに、先生たちも一緒に遊びます。既に、4月19日と5月17日の2回実施しました。この中間休み延長の話が始業式でした時、壇上から見える光景は爽快でした。子どもたちの満面の笑みと歓喜。やっぱり、ゲームも好きだけれど、みんなと遊ぶこと、体を動かすことを欲しているんだなあと痛感しました。月に2回程度ではありますが、この日は「学校へ行くのが楽しみ！」になればとも思っています。この2回は先生たちも汗びっしょりになって遊びました。その後の授業に支障がないかと心配したほどです。



4/30～5/2の家庭訪問では時間の都合をつけていただきありがとうございました。聞かせていただきましたことは、今後の教育活動や学級経営の参考にさせていただきます。

校長 塩尻 竹弘

本校教職員の研修について ～ よりよい問題解決ができる児童の育成 ～

子どもたちが、成人して社会で活躍する頃は、グローバル化の進展等により、今以上に予測が困難な時代が到来していると考えられます。とりわけ、人工知能（AI）は、飛躍的な進化を遂げています。アメリカの会社が開発した「チャット GPT」は、人間が文章で問いかけると短時間で自然な回答をしてくれますし、自分の希望に沿った絵を描いてくれる AI も登場しているとも聞きます。

このように、ひと昔前では想像もつかないような変化の激しい時代を生きる子どもたちに、どんな力が必要なのでしょう。

本年度、吉美小学校の教職員は、「よりよい問題解決ができる児童の育成～思考と対話を繰り返し、協働的に学ぶ算数科の授業づくりを通して～」をテーマに研究活動を進めています。

予測が困難な時代には、きっと様々な問題が出てきます。もしかしたら、解決できないような難しい問題と出会うかもしれません。そんな問題を解決するには、みんなで考えやアイデアを出し合うことが大切です。算数科の授業の中で、「どうやったら解けそうかな」といろいろ考えてみたり、解き方を友達と伝え合ったりしながら、問題をよりよく解決する経験を重ね、変化の激しい時代を生きる子どもたちに必要な力を身に付けさせたいと考えています。



訂正

学校だより 4 月 19 日号で学校運営協議会の皆さんの紹介をしましたが、一部間違えがありましたので訂正します。申し訳ありませんでした。（誤）中島祐子 様 → （正）藤田紘子 様